

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401772		
法人名	有限会社 グループホーム梅の木		
事業所名	有限会社 グループホーム梅の木		
所在地	長崎県南島原市深江町乙1452		
自己評価作成日	令和 元年8月22日	評価結果市町村受理日	令和元年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康で長生きの人生を理念として利用者の健康管理、転倒防止、感染予防の早期発見に心がけ医療機関との連携に努めている。利用者の一人一人を大切に人格尊重の思いで接し家庭的な雰囲気や安心・安全・快適に過ごせるように支援している。市・町の祭りにもできるだけ多くの入居者と共に参加し地域の人のコミュニケーションの場になるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは「転倒をさせない介護」、「口腔ケア実施で感染予防」、「早期のエアマットの利用で褥瘡予防」を重点的に支援に取り組んでいる。かかりつけ医への定期受診の際には基本的に職員が同行し、入居者のバイタルサインの記録類を持参し入居者の情報を主治医へ伝えている。また、精神科など専門医療機関を受診する方もおり、職員は家族が安心感を持てるよう受診状況を適宜伝えている。ホーム内は職員の清掃によって清潔に保たれており、冷暖房の調節や加湿の状況を管理しながら、入居者の健康に留意した支援に取り組んでいる。ホームでは基本方針を「人格尊重、真心でサービス提供、健康で長生き人生、自由で伸び伸び人生」とし、代表者や管理者からも職員へ常日頃伝え、日々の支援を振り返りながらケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 1ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、個人の人格を尊重しつつ生活支援に心がけ、真心のサービスを提供し、理念に沿ったケア提供が出来るように日々取り組んでいる。	ホームでは「人格尊重、真心でサービス提供、健康で長生き人生、自由に伸び伸び人生」を基本方針として掲示している。代表者や管理者は基本方針を職員に伝え、支援内容を振り返りながら介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	諸行事への参加の呼びかけを行い、地域の方々への挨拶など心掛けて行っている。	敬老会などホームでの行事開催時には、地域の老人クラブの方や踊りや歌い手のボランティアの方を招いている。また、自治会の回覧板回覧や地域清掃等への参加を通じて地域住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在までに生かした経験や知識をもとに、来られた相談等には気軽に応じるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を職員・家族と共有して、運営や適切な介護に反映するように努めている。	2か月に1回開催する運営推進会議には家族代表、町内会代表、地域包括支援センター職員、外部有識者、ホーム代表者、計画作成担当者の参加がある。会議では事故報告等に加えてインフルエンザの予防や対策についても話し合い、職員にも議事録が閲覧できるようにして内容の周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携を密に行いサービス向上に努める。	ホームは介護報酬や運営上の課題について島原地域広域市町村圏組合の介護保険担当者へ相談し、サービス向上に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開催したり、研修に参加し全職員が理解を深めている。常に全職員と話し合い身体拘束ゼロに努めている。	ホームでは身体拘束「ゼロ」を目指したケアに取り組んでおり、訪問調査日現在、身体拘束は行っていない。定期的に外部の講師を招いて虐待や身体拘束に関する研修会を実施し、職員の知識や理解を深めている。研修に参加できなかった職員にも研修資料を回覧し、周知を図っている。	現在、身体拘束適正化委員会の開催状況が分かりづらいため、委員会開催時には明確な記録を残すとともに新人職員への身体拘束に関する研修を実施した際にも研修記録を残すことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴・更衣等での身体観察を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修会を行ったり、成年後見制度の理解を深め、必要な場合は活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長より十分な説明を行い家族の理解・納得を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口、相談担当者についての説明を行い、苦情処理箱を設置している。家族の意見は謙虚に受け入れ改善に努めている。	ホームでは事業所だよりを3か月に1回発行し、入居者の生活の様子を伝えている。家族来訪時にも入居者の状況や受診結果のほかに、普段の表情などの近況を伝えることで家族の安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く機会を設け改善に努めている。	職員会議の開催時など、代表者及び管理者は日頃から職員へ意見を聞く機会を設けており、アイデアなどが出された場合は積極的に運営に取り入れるよう努めている。また、急な職員の勤務交代にも対応できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状態や家庭環境に合わせた勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が向上心を持って働けるように2か月に1回定期的に勉強会を開催。勉強会・研修会等へ積極的に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市グループホームケア研究会に入会しており各種研修や職員交流会にも参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の訴えに傾聴し速やかに対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に話や相談ができるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があればその都度速やかに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になり、学んだり支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場に立ち、ともに一緒に本人を支えていく努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、本人との会話を極力行ってもらうよう努めている。	入居者の友人や知人が訪ねて来た際には、共用フロアや入居者の居室でゆっくりと会話ができるよう職員が仲介役となって場を和ませている。また、入居者の希望に応じて墓参りや入居者の自宅を見に行くなど支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの場を確保し交流がはかれるようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的関わりを必要とされる利用者や家族にはその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合わせ検討し、安心してホームでの生活が過ごせるよう心配りしている。	ホームでは入居者の思いを汲み取るにあたって新人職員とベテラン職員それぞれの視点から新たな発見を見出すことにより、入居者への支援に活かしている。また、支援記録を家族に示すことで家族の安心へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活状況を把握しサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって楽しく過ごせるよう話し合っている。	介護計画は職員や家族からの意見を踏まえた上で管理者が作成している。定期的なモニタリングで実践状況を評価するほか、入居者の状況に変化が生じた場合などは再度アセスメントを実施し計画の修正を行い、現状に沿った計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践や結果を個別に記録し気づいた点を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の身体状況に合わせて要望に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じ協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ定期受診を行っている。	ホームではかかりつけ医への定期受診の際には基本的に職員が同行し、入居者のバイタルサインの記録類を持参し情報を主治医へ伝えている。精神科など専門医療機関を受診する方もおり、職員は家族へ受診状況を適宜伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に様子を聞いたり・面会を行って状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合い、医師との連携で方針を共有している。	ホームでは看取りに関する指針を整備し、入居時に入居者及び家族に説明し、同意を得ている。入居者が終末期に至った際にはあらかじめ家族の意向を確認し、主治医とも相談し話し合いながら支援方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や自己発生時に備え、できるだけ救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練実施。	ホームでは緊急時の対応マニュアルを作成し、職員の対応や役割分担を職員に周知している。避難訓練は全職員と入居者が一緒に訓練を行っており、全職員が消火器操作を行う訓練を実施している。管理者の自宅がホームに隣接しており、緊急時の協力体制を構築している。	近年、自然災害が多発していることを踏まえ、ホーム内にハザードマップを掲示し避難ルートや危険箇所を再確認するとともに、自然災害を想定した避難訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう心掛けし状況に応じた対応を行っている。	ホームでは個人情報保護に関する指針(プライバシーポリシー)を整備し、個人情報の取り扱いに留意している。職員は入居者への言葉掛けの際に目上の方であることを常に意識し、友達に接するような言葉にならない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々が納得した自己決定ができるよう説明・対応を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設長自らホームのサービスとして行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ出来る範囲にて準備・片づけを行っている。	食事の調理は外部の業者へ委託し、刻み食やトロミ食などの食事形態の方についてはホームで対応している。おやつについても準備し入居者へ提供している。正月や敬老会、誕生日などの行事を開催した際にはお祝いの膳を準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や身体機能に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事のバランスを考え水分補給・腹部マッサージ等、個々にあわせ体を動かす事も取り組んでいる。	職員は入居者ができるだけトイレで排泄できるよう声掛けや誘導を行っており、入居者の自尊心を損ねないようプライドへの配慮にも努めている。臭気への対応については適宜換気を行い留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況に合わせ、飲食物の工夫や主治医処方薬を使用するなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	理解力が乏しい為、バイタルチェック・健康観察にて支援を行っている。	入浴日は基本的に毎週火曜日と土曜日の午後に設定しており、入浴できない方には清拭や足浴にて対応している。重度の方の入浴については職員2名で対応し、必要に応じてシャワーチェア一等を活用して湯船に浸かることができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じゆっくり安心して休息したり、眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で管理し服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が楽しみ趣味を活かし活動できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望があれば外出・外泊できるよう支援している。	ホームでは入居者の介護度も高く外出が徐々に難しくなる傾向にあるが、できるだけ外気に触れることができるよう機会を設けている。つつじ見物や花火大会の見学、島原初市での買い物など、季節に応じた外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解に乏しく所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時などは、家族へ電話をかけてやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける様子を飾ったり、思い出の写真を貼り心地よく過ごして頂けるよう空間作り努力している。	ホーム内は職員の清掃や換気によって清潔感が感じられ、入居者に気持ち良く過ごしてもらえるよう天候の良い日には布団を干している。職員は室温や湿度にも配慮し、入居者が居心地良く過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に好きな場所で思いおもいに過ごせるよう居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた物を居室に置いて過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。	ホームの全居室のベッドにはエアマットを使用している。室内には家族の写真や入居者馴染みの物が持ち込まれており、その方に合った居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に応じ安全に生活が送れるよう配慮しながら行っている。		